

第5章 ^{きょうど}郷土を開いた人々

1 ^{やまじろ}山城を築いた^{きず}芦名^{あしな}盛氏^{もりうじ}

^{あしなもりうじ}芦名盛氏は、^{くろかわじょう}芦名氏第16代の黒川城（^{つるがじょう}後の鶴ヶ城）^{しゅ}主
です。

芦名氏は、^{さがみのくにみうら}相模国三浦の豪族^{ごうぞくみうらよしあき}三浦義明の子^{さばらよしつら}佐原義連か
ら起こりました。義連は1189（文治5）年に奥州平泉（岩
手県）の^{ふじわらやすひら}藤原泰衡を攻め滅ぼした^せいくさの^{ほろ}ほうびとして
会津の一部に^{りょうち}領地をもらいました。その後、義連の四男
の^{みつもり}光盛が^そ芦名氏の祖となり、少しずつ会津各地へ力をの
ばしていきました。7代^{なおもり}直盛の時に、現在の会津若松の
地に城を^{きず}築いて黒川城と名づけ、^{じょうか}城下を黒川としました。
1589（天正17）年に伊達政宗に滅ぼされるまで会津を支
^{はい}配していました。

盛氏が、1553（天文22）年に33才で黒川城主となって
からは、伊達氏と^{しんるいかんけい}親類関係を結んだり、^{むす}そむいてくる豪
族を武力で押さえたりして、^{なかどお}中通りや^{えちご}越後の方にまで
力が^{およ}及ぶほどになりました。

盛氏は、^{ばんねん}晩年になると会津本郷町に^{むかいはぐるさんじょう}向羽黒山城を築き、
1568（永禄11）年に^{いんきよ}隠居をして^{うつす}移り住みました。そこへ
旅人や文化人を^{まね}招いて、^{しぜん}自然を楽しみながら住んでいま
した。そして1580（天正8）年6月に60才で亡くなりま
した。